

「第6次高千穂町総合長期計画後期計画及び第3期高千穂町まち・ひと・しごと総合戦略(案)」に対する
パブリックコメントの内容及び回答

No.	意見の概要	町の考え方
1	<p>① 国は地方創生 2.0 において、従来の地方における人口減少と東京一極集中の是正に取り組むものから、人口減少を前提に地域社会を維持できるような施策に取り組むとして、大きく方針転換しています。一方、本町の新総合戦略は、基本的に現戦略と同様の記述が多くなっています。KPI のひとつである年間出生数は現状よりも高い数値目標となっており、現実的な数字とは考えにくいと感じます。本町においても、人口減少を前提にし、その上で、地域社会を維持・発展するために必要な施策に注力すべきではないでしょうか。</p>	<p>今回のまち・ひと・しごと・総合戦略(令和8年～12年)につきましては、長期計画(令和3年～令和12年)の内容を踏襲したものとなっており、現戦略と同様の記述が多くなっています。</p> <p>年間出生数につきましては、現在高千穂町では国の助成制度を含め、町独自での子育て支援策を講じております。現状、目標値に達していませんが、それらの策を講じ、目標値達成に向けて町として取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>なお、KPI につきましては、毎年度各種団体の代表者や有識者によって構成される創生会議にて見直しを行っております。</p>
	<p>② 人口が減少しても地域経済を発展させる方向性として、観光の高付加価値化があると思います。新戦略において、年間観光客数について現状 1,570 千人を 2,000 千人に、消費額について現状 9,177 百万円を 10,000 百万円にという KPI があります。しかし、この KPI でいくと、一人当たりの消費額は逆に減少してしまいます。高付加価値化を目指すには、一人当たりの消費額が増えるよう KPI を設定する必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>令和6年度における年間観光客数及び消費額については、現在コロナ禍からの反動により大きく伸び、観光客、消費額ともに過去最高の数値を出しております。しかし、コロナ禍前においては、今回設定した水準よりも低い数値でありました。今後また、以前のようなパンデミックが起きるとは予想しがたいため、コロナ禍前の数値も参考に入れつつ、今回の目標値について設定いたしました。</p> <p>目標値以上の成果が得られるよう、町としても様々な事業を展開し、関係事業所と協力して地域経済を発展させる方向性を見出していきたいと考えております。</p> <p>なお、KPI につきましては、毎年度各種団体の代表者や有識者によって構成される創生会議にて見直しを行っております。</p>